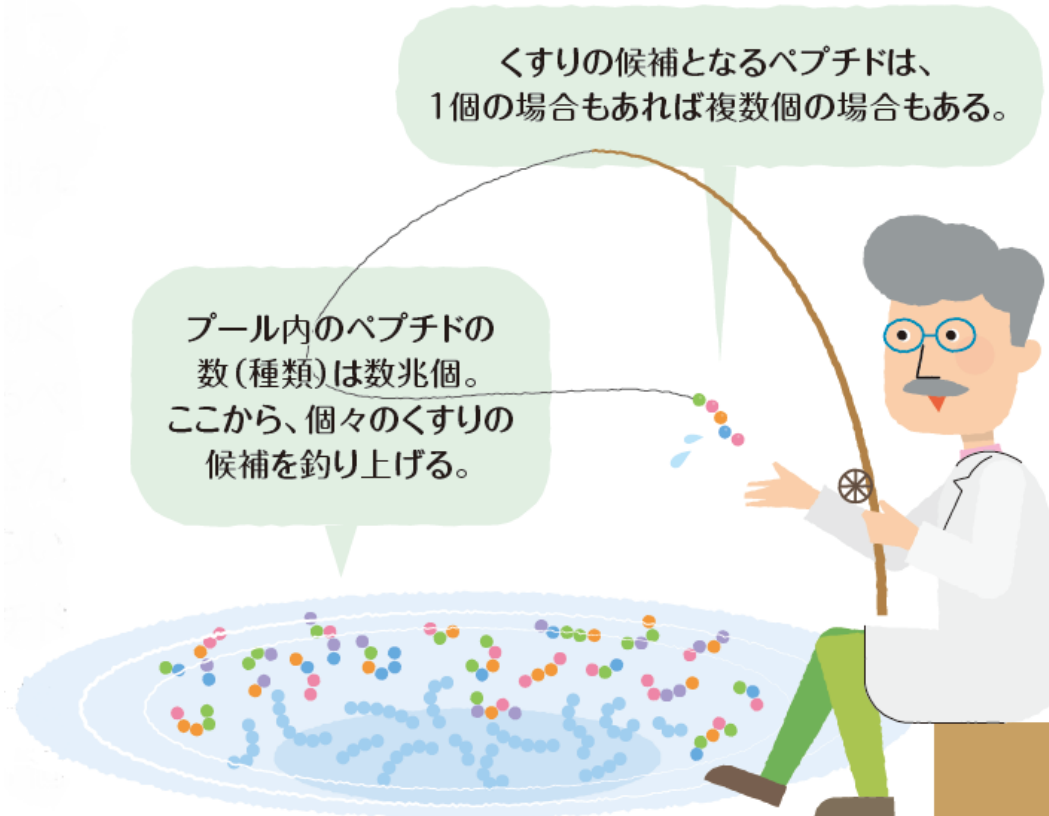


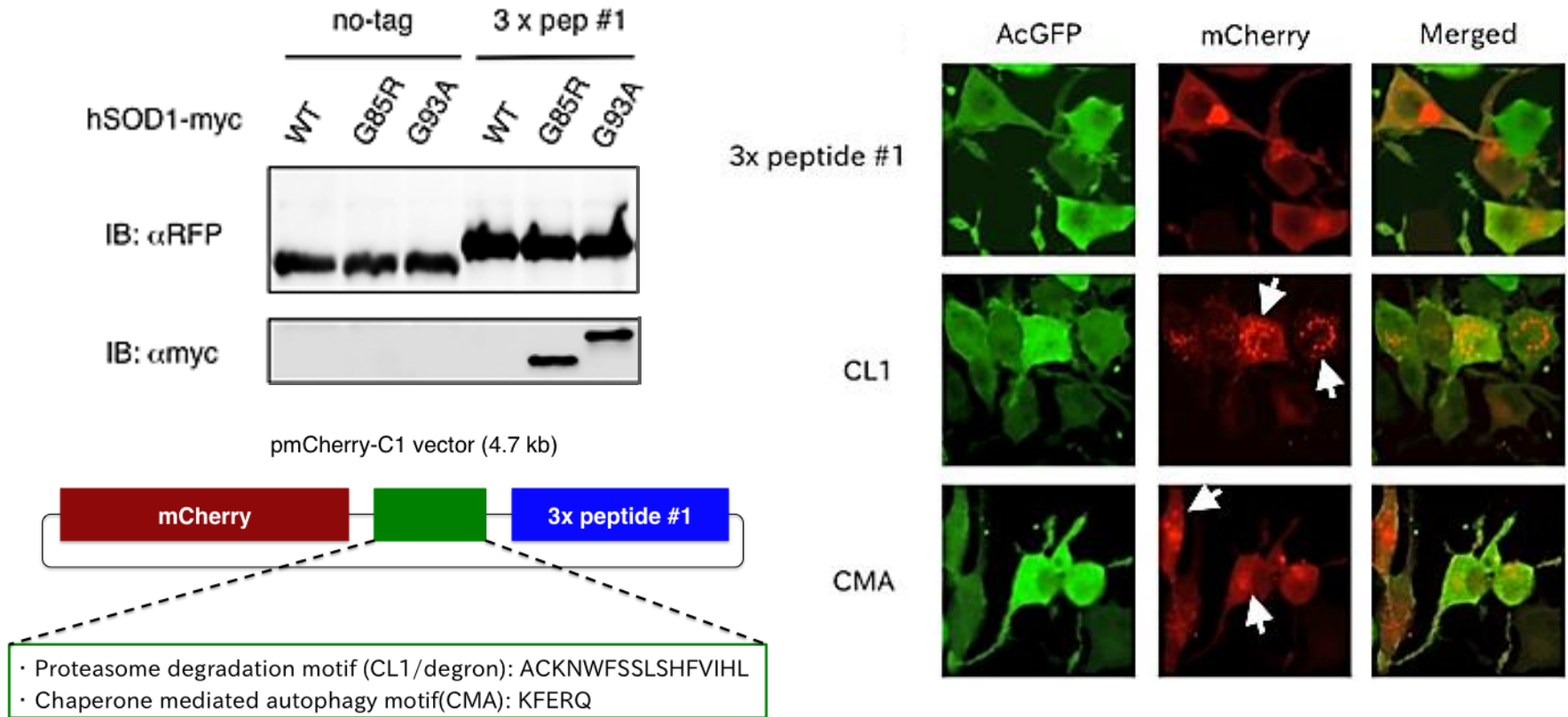
当社特許技術

膨大な多様性（1～10兆種類）を有するペプチド分子群の中から、標的特異的に結合するペプチド（創薬リードペプチド）を効率的に選択する技術



ALS治療に向けた応用例

ALSを引き起こす原因の一つとして、変異型SOD1の凝集が考えられており、変異型SOD1を特異的に分解することが出来ればALS治療に繋がることが期待される。



山中 宏二 名古屋大学環境医学研究所 所長（当時は理化学研究所所属）との共同研究

変異型SOD1特異的に結合し、分解系に誘導するペプチドの獲得に成功。

ALS治療薬開発に向けた課題と対策

① ALS治療に有効な標的分子同定

- ・ ALS発症機構の解明、原因物質の特定
- ・ 遺伝性、孤発性両方に関係する標的
(例：TDP-43)

→ 様々な創薬標的に対して、迅速に（3カ月～半年程度）創薬候補ペプチドを獲得

② 中枢神経系へのペプチドDDS

- ・ 膜透過性ペプチドとの融合
- ・ 遺伝子導入による神経細胞内発現

→ ペプチドの特性を活用した革新的治療法の実現